2K 英語F　解答欄　12月11日

学籍番号　K19093　　　　氏名　福本光重

50ページ～51ページ28行目までの和訳

日本がこのように安定した経済を持っている重要な理由の１つは（とにかく最近まで）、労働力が非常に懸命に働いていることです。ほとんどの従業員は、毎日仕事に長時間費やしても気にしません。彼らはしばしば週末や休日にもオフィスにやって来ますが、残業代は支払われません。もちろん、すべてのオフィスや会社がそのような厳しいスケジュールを固守しているわけではない。そして過去１０年ほどで、多くの変化が起こりました。しかし概して、日本企業は一年中営業しており、従業員が会社にいることを期待しています。アメリカのオフィスと会社はかなり異なります。彼らはより厳格な5日間、1日8時間の労働時間に従います。従業員は、退社時間を過ぎて仕事を続けることはめったになく、すぎに打刻をして、ちょうど時間通りにまっすぐ家に帰ることを好みます。彼らにとって、オフィスに遅れて滞在することは、無料で働くようなものであり、彼らが本当にやりたくないことです。アメリカ政府はこれについて彼らを支持している。労働者がどれだけ長く働くことができるかについては、厳格な労働政策があります。1日に8時間以上働く労働者は、残業代を支払う必要があります。これは、通常賃金の1.5倍または2倍の割合である。ほとんどの企業は、従業員が時間どおりに退社することを奨励しています。アメリカの職場と日本の職場のもう一つの違いは、いつも私を驚かせます。休暇の概念です。（最近まで）有給休暇を利用しないことが多い日本人従業員とは異なり、アメリカ人労働者の大多数は、休暇日をすべて「利用」しています。彼らは彼らを追い越すことを夢見ませんでした。大きな計画がなくても、家にいて気楽に過ごすつもりでも、アメリカ人は休暇を使い果たしてしまいます。または、これも大きな違いです。彼らは、獲得した休暇日を「現金化」します。そして、ここにもう1つの違いがあります。休暇を取るとき、ほとんどの日本人は2、3週間の休暇を続けて取ることがありません。一方、アメリカ人は丸一ヶ月休むことをなんとも思いません。彼らは、仕事からそれほど長く離れることなく「夢中になる」と感じています。